

挑戦目標と算定方法一覧

基本方向	項目(指標)	基準値 (平成20年度)	挑戦値		挑戦値の考え方	算定方法
			前期 (平成27年度)	後期 (平成31年度)		
【基本方向1】 人と地球環境にやさしい 交通環境づくり	バリアフリー基準に適合したバス車両の割合	16.7%	30%	37%	現状の補助制度が継続する前提で、年間平均7.5台増を目標とする。	毎年8月現在の市内を運行する路線バス事業者(現行3社)のノンステップバス車両の総車両数に対する割合。
	車いすの方や心身に障がいのある方が楽に出歩ける環境にあると思う人の割合	11.1%	15%	20%	市民の利用度の高い路線や安全施設が必要な路線を整備することにより、基準値を全体の1割とし、10年後の平成31年度挑戦値には2割を目標にする。基準値と平成31年度挑戦値を結び直線上に平成27年度挑戦値を設定した。	総合計画の計画管理に係る意識調査で、「車椅子の方や心身に障がいのある方が楽に出歩ける環境が確保されていると思いますか」の問いに、「そう思う、どちらかというと思う」と答えた人の割合。
	市道の歩道整備延長	254,748m	260,387m	264,000m	年間900mの整備を目標とする。	都市計画マスタープランで示されている整備目標を踏襲した。
	交通事故発生件数および死傷者数 (人口1千人当たり)	発生件数5.3件 死傷者数6.7人	発生件数4.7件 死傷者数6.0人	発生件数4.5件 死傷者数5.6人	県内において交通事故発生件数および死傷者数が毎年ワースト上位を占めるなど憂慮すべき状況が続いていることから、安全な生活を確保するうえで、平成31年度挑戦値を目標とする。基準値と平成31年度挑戦値の直線上に平成27年度挑戦値を設定した。	平成20年度から過去5年間の数値にて算出。 交通事故発生件数÷人口×千人 交通事故死傷者数÷人口×千人
	緊急輸送道路に架かる市道橋梁の耐震補強整備率	60%	100%	—	年間1橋の整備を目標とする。	緊急輸送道路に架かる市道橋梁のうち、耐震補強整備橋梁の総計画橋梁数(15橋)に対する割合。
	自転車専用レーン等の路線数	—	整備すべき路線の調査を行います	駅周辺、通勤、通学の利用頻度の高い地区への設置を目指します	現時点では、具体的な設置箇所、需要が把握できていないことから、前期期間で設置する箇所の調査を行い、後期に具体的な設置を目指す。	新たに自転車専用レーンなどを設けた路線数。
【基本方向2】 自家用車と公共交通を上手に利用できる交通環境づくり	公共交通機関利便性の満足度	30.6%	42%	50%	鉄道やバスの便数増加やバス路線の再編などにより、平成31年度挑戦値を目標とする。基準値と平成31年度挑戦値を結び直線上に平成27年度挑戦値を設定した。	総合計画の計画管理に係る意識調査で、「バスや電車などの公共交通機関の利便性について、どの程度満足されていますか」の問いに「満足である、ある程度満足である」と答えた人の割合。
	都市計画道路の整備率	67.3%	71%	73%	土木部、都市整備部(区画整理区域内)の都市計画道路の整備予定延長から平成27年度挑戦値の整備率を算出し、その割合で平成31年度挑戦値を設定した。	都市計画道路整備延長の都市計画道路総延長に対する割合。
	市内を車で移動する時にスムーズだと感じる人の割合	51.1%	60%	65%	基準値と総合計画の平成27年度挑戦値の延長線上に平成31年度挑戦値を設定した。	総合計画の計画管理に係る意識調査で、「車で市内・市外に移動するときにスムーズだと感じますか」の問いに「そう思う、どちらかというと思う」と答えた人の割合。
【基本方向3】 多様な選択ができる交通ネットワークの形成	小湊鐵道の運行本数(平日1日当たり)	58本	現在よりも増やすように働きかけます	運行本数の維持を目指します	具体的な本数増は掲げられないため、現在よりも増やすよう働きかけていく。	小湊鐵道の運行本数。
	市内の路線系統数	83系統	現在よりも増やすように働きかけます	系統数の維持を目指します	具体的に系統数は掲げられないため、現在よりも増やすよう働きかけていく。	路線バス事業者(現行3社)の総運行系統数(コミュニティバスを含む)。
	公共交通機関利便性の満足度	30.6%	42%	50%	鉄道やバスの便数増加やバス路線の再編などにより、平成31年度挑戦値を目標とする。基準値と平成31年度挑戦値を結び直線上に平成27年度挑戦値を設定した。	総合計画の計画管理に係る意識調査で、「バスや電車などの公共交通機関の利便性について、どの程度満足されていますか」の問いに「満足である、ある程度満足である」と答えた人の割合。
	市内の高速道路IC(現在2箇所)の年間利用台数	538万台	620万台	620万台	基準年から高速料金値下げなどを加味し、8万台/年の増加とし、都市交流核拠点内施設の集客を考慮し平成27年度挑戦値を目標にする。平成27年度以降は外的要因がない限り伸ばすことは難しいため、維持を目標とする。	市内3箇所の高速道路インターチェンジを利用する車両の年間総台数。
	高速バスの路線数	6路線	9路線	9路線	圏央道の開通により、新宿便、成田便などの運行をバス事業者に働きかけ、平成27年度挑戦値として3路線増を目標とする。平成27年度以降は、外的要因がない限り増やすことは難しいため、維持を目標とする。	市内に高速バス停留所がある高速バス便の総路線数。
	JR3駅の1日当たり乗者数	44,769人(平成19年度)	利用者増を目指します		基準値の乗者数より平成31年度挑戦値は、乗者数増を目標とする。	JR八幡宿駅、五井駅、姉ヶ崎駅の1日当たり総乗者数。
	ちはら台駅の1日当たり乗者数	2,287人(平成19年度)	複線化などに向けて利用者増を目指します		基準値の乗者数より平成31年度挑戦値は、乗者数増を目標とする。	京成電鉄ちはら台駅の1日当たり総乗者数。
	観光資源の活用が図られていると思う人の割合	24.5%	50%	65%	基準値と総合計画の平成27年度挑戦値の延長線上に平成31年度挑戦値を設定した。	総合計画の計画管理に係る意識調査で「養老渓谷などの観光資源の活用が図られていると思いますか」の問いに「そう思う、どちらかというと思う」と答えた人の割合。
【基本方向4】 地域とともに育む交通	交通空白地域の箇所数	平成22年度に調査	箇所が減少するよう努めます		交通空白地域の定義を見直したことから、交通空白地域数を平成22年度に調査し、それを減少させていくことを目標とする。	平成22年度の調査によって定めた交通空白地域数を基本として、バス路線の増減により箇所数を再算定する。
	何らかのボランティア活動が行われている小湊鉄道駅の数	8駅	10駅	10駅	上総牛久駅—養老渓谷駅間の10駅で、駅を中心とした地元ボランティア団体の活動を支援し、平成27年度挑戦値として10駅(全駅)を目標とする。それ以降は継続していく。	上総牛久駅から養老渓谷駅間の駅で、地域との連携により、ボランティア活動が行われている駅の総数。
	交通空白地域のうちなんらかの交通施策を働きかけた箇所数	—	全箇所	—	交通空白地域のうち、なんらかの交通施策を働きかける箇所数として、平成27年度までに全箇所数を目標とする。	平成22年度の調査によって定めた交通空白地域を基本に、なんらかの交通施策を働きかけた箇所数。
交通施策体系全体	市民意識調査で暮らしやすいと感じる理由として、「交通の便が良い」と回答した人の割合	19.8%(平成19年度)	30%	40%	交通の便が良いと回答した人の割合を基準値から10年後には倍にしたいと考え、平成31年度挑戦値を目標とする。基準値と平成31年度挑戦値を結び直線上に平成27年度挑戦値を設定した。	市民意識調査で「暮らしやすいと感じる理由」の問いに「交通の便が良い」と答えた人の割合。